

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年5月24日(土)

みんなの居場所

本番です！

直前の雨予報で一日延びた運動会ですが、思い入れは強まったのではないのでしょうか。間違いないですが、歩くスローガン通りの運動会になることでしょう。

6年生にとっては小学校最後の運動会、1年生にとっては小学校で初めての運動会、また、それぞれの学年にとってもそれぞれの思い入れがあることでしょう。

日頃から私は運動会についてこのように考えています。「勝ち負けの結果より、結果にたとわり着く過程が重要だ。」と。

子どもたちは運動会の経験からお金では買えない尊い、そして掛け替えのないものを手に入れるはずで、楽しみです。応援よろしくをお願い致します。

校区探検発見

14日(水)、3年生と一緒に金山方面へ校区探検に行きました。私自身、通勤に使った道を歩いたのですが、歩く新しい発見があります。セーニレフンから学校までの道路に、何も無いという印象でしたが、実は多くの施設がありました。「梨園」「養蜂場」「海苔販売店」「自動車整備工場」「理容室」…。車で通れば3分程度で過ぎてしまふ道ですが、歩いてみると、とても多くの発見がありました。来週は府本方面への探検があるらしく、今から楽しみです。



最近の社会⑥

いよいよ最終回です。

◎お嬢様の気持の低下

「半」は自分の力で成功した」とか、いわゆる自信過剰な人や自惚れ屋さんは窮地に追い込まれることも多いです。「美るほど顔を垂れる稲穂かな」という言葉がありますが、驕らず謙虚さを忘れない人は、困った時に周囲の人が助けてくれます。

◎中途半端

最近の若者の中には、自分の仕事に対して誇りをもっていない人が少なくないと感じるのは、私だけでしょうか。また、そういった若者は何をしても中途半端な取り組みになっているのでは、気になって仕方ありません。私は教職という仕事が好きです。先生と呼ばれることに誇りをもっています。そして私が教師として活動することの報酬として、大切な税金から給料を頂いています。いい加減なことはできません。若者の仕事に対する真摯な姿勢が感じられなくなってきた現代社会において、色々な事件が多くなっているような気がしてならないのですが…。

5回に分けて大変生意気なことを述べてまいりましたが、「ここに挙げたことは私の個人的なものであって、私自身、今後の子育てによって、また、教職の経験によって少しずつ変わっていくものだと考えています。だからこそ、真剣に考えていかなければならないことであり、我々教師が色々な場面において話していかなければならないことだと感じています。そして、保護者と教師が共通理解のもとに活動することが、最大の教育効果を生むのだと確信しています。私も気持ちを引き締め、頑張ります。

シリーズ「自分を語る」#12

5年生になると更に行動範囲が広がり校区外も何のそので、自転車さえあればどこまでも出かけて行く澤田少年。5・6年生の時の担任の先生は初任の先生だったので、企業に就職した後、教職の道を諦めきれずに採用試験を受けられたという熱血先生でした。

5・6年生の頃、思春期の入り口といいますが、何となく異性も気になってくる頃でしょうか。私はというと、5年生の頃っていつと手紙を送ったことには興味がなく、野球とフットボール作りに明け暮れた毎日でした。この頃も新設校ならではのEスポーツがあります。新設当時、小学校にはプールがありませんでした。どこに水泳学習に行っていたかという、民間のプールです。先般の私の事件に出てきた「新地プール」です。そこまで歩いて行きます。当然、午前中は移動と水泳学習で時間が過ぎていきます。水泳学習後、ちよつと涼しかったりするのですが、私の方は違いまして、汗だくで帰ってきて、給食準備をします。そしてメニューに「うどん」などが出てくると、あまの舌で「牛乳瓶(私達の頃は牛乳は紙パックではなく瓶でした。))」に水を入れて飲む者もいました。何をしても楽しかった時代です。

5年生の頃、印象に残っていることはいくつもあります。まずは、虫取りです。クワガタばかりですが…。近くにあった「倉倉山」は、山といひながら「E」でななに高くもなく、私たち小学生にとっては格好の遊び場でした。夏休み中は、ソコ体操の後、数人で連れ立って倉倉山へ走っていきいます。自車で行くと他の仲間が親に言いづけるからです。だから、私たちは「E」と倉倉山に行きます。ポケットの中には山遊びに欠かせない「肥後守」を忍ばせています。現場に着くと、程よいクワガタの木を摘みます。そして近づく「カマツカ」と落ち葉の上のクワガタの落ちた音がするのです。そしてその場所に行くと「クワガタ」がこちらを見て威嚇しています。楽しかったんです。この瞬間が、そして、虫かごを持って行っていない私たちは、クワガタを帽子の中に入れてそれをひきいて帰ります。すると、クワガタは帽子の中の折り返しの部分に引っかかって逃げ回ります。帽子の中でも動き回ります。これが私たちにあっては快感でした。うわーっ、たかき捕れた。」「うーっ、達成感です。今の子どもたちにはできない、昭和の子どもの芸当ですね。虫嫌いの子どもにとっては鳥肌立つ様な芸当です。

家に帰ると「何はよつたのねー」とか「うーっ、さうなのですか、その前帽子は取っていますし、母もここにいたかは見当がついていましたから、朝飯前の運動だわい。」「と屁理屈を言ね、母も「はよ、飯は食わねー」と朝から威勢のいい会話が繰り返られていました。今では、ラジオ体操を数えるほどしかありません。その後、遊びに行うものなら、警察のお世話になることだってありますね。子どもらしい冒険ができないといつか、世知辛いといつか、今の子どもたちは何を夢見ていたのか。(つづく)